代表質問

リバーサイドシニアタウンづくり

市民クラブ政友会
伊藤　一郎

問 水害被害者の生活回復を願い次の質問をいたします。
十二波自然公園については、26年前より陳情してきました。史跡はどのようになりますか。

答 考え方について同感

市長 治水対策や環境に配慮し、豊かな川資源や周囲の文化財などを活かした空間にします。

問 この河川公園を中心にバーサイドシニアタウン』作りを私は提案します。現在の日本の65才以上は4人に1人。2030年には3人に1人。2060年には2.5人に1人となります。又、団塊の世代が受け取る退職金は、85兆円。シニア層の国民総資産の割合は70％この点を踏まえて、私は旧商店街の活性化を目的に都市部のシニアの人達の移住を促進するためにも宍粟市は『リバーサイドシニアタウン』構想をすべきです。宍粟市は、千種川沿いに千種町商店街があり、波賀町引原川沿いに波賀町商店街があります。水害を受けた一宮町では現況復帰でなく、二度と被害を受けないための改修を求めるとともに、次の時代を先どりした、市の発展につながる改修を求めます。この一宮町市民局周辺には揖保川沿いに町並があり、各市民局がアイデアを出し合い競走して進めるべきです。

市長 団塊の世代が退職期を迎え、田舎暮らしや空き家についての問い合せが多くあり、本市でもU・I・Jターンなど都市住民の受け入れを推進しています。この考え方には同感です。ネーミングについては、今後検討いたします。

問 宍粟市は職人の街で、宍粟材を使うなどの提案をすべきです。又、一番大切なことは、生活がしやすい街。特に山崎町の水道料金が高いと、都市部から山崎町へ移住をされた方から不満を聞きます。

市長 生活がしやすい街づくりについては、総合的に考えます。

問 今回の水害について引原ダム放流との関係は。

市長 引原ダムの放流については、水害と因果関係はないと信じています。
国の管理する揖保川の災害地は、国の整備計画案の中に計上されています。国としては早期に対策できるよう検討を進め、安心して暮らせる地域づくりに努めるとのことです。

土木部長 山崎での揖保川の流量では、今回は2000㎥/s昭和47年は1700㎥/s昭和51年1500㎥/sです。揖保川の計画流量は、3000㎥/sなので、国の改修計画で十分に対応出来ます。

問 北部3町は市民局長が責任ある対応をされたが、山崎町では責任者が不在で的確な指令がなされなかったと思います。

市長 今後合併検証委員会で検討します。

水害時の揖保川の水位とダム放流量

日	揖保川の水位		引原ダムの放流量
	時間	山崎の水位(m)	放流量(㎥/s)
9日	20:00		34.940
	21:00	1.08	45.590
	22:00	1.27	64.940
	23:00	1.58	33.590
10日	0:00	2.84	5.380
	1:00	3.71	5.450
	1:30	3.73	←最大水位
	2:00	3.64	80.610
	3:00	3.40	99.000
	4:00	3.12	99.320

●県としては、避難水位は４ｍ
●引原ダムから山崎までの水の流れる時間は、約３時間。ダム100tの放流で、山崎では水位が17cm上がる。